

宝物はすぐそばに

校内研通信

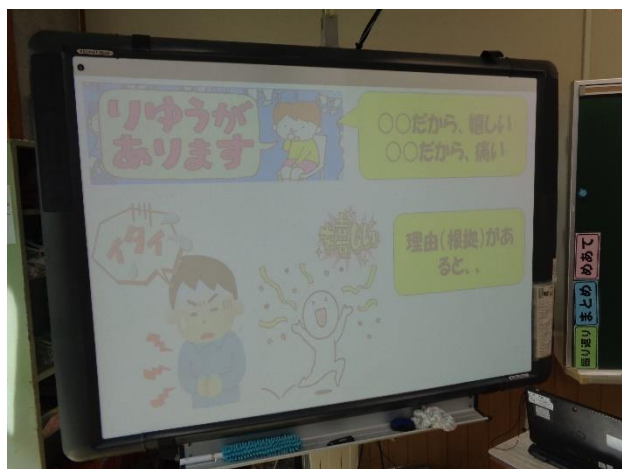
第27号

R7.11.26

発行者:校内研担当 仲村智

帝(みかど)はフラれ、不死の山は“富士山”に…

11月26日(水)3校時、1年5組にて大城美奈先生が国語の授業を公開しました。本時のねらいは、根拠となる描写をもとに、一番悲しい思いをした人について、自分なりの理由を考えて書くことです。まずは1年5の元気さに圧倒されました。研究授業で多くの先生方が観ていようと、頭浮かんだことが言葉に発せずにはいられない、そんな生徒を担当でもある美奈先生が上手にころがし、タイムマネジメントもしっかりと授業を展開していく姿に安心感が漂います。生徒一人一人も、しっかりと物語を把握しているなかで時には友達と議論を交わしながら、本日のねらいにそって自分なりの意見をまとめることができていました。ファシリテーターとしての緩急が見事で、そのなかでも「根拠」の意味を丁寧におさえるなど、授業の肝となるポイントはしっかりとおさえることでメリハリのある授業になったと思います。美奈先生、素敵な授業をありがとうございました🙏



RSを
国語科から
学ぶ

RS視点での読解力は主に次のような4要素、「情報の取り出し」「理解・評価」「活用」「非連続型テキストへの応用」で構成されている。

『国語はすべての科目の土台。国語力を上げれば他の科目の成績も上がる』よく聞かれる言葉ですが、国語が全教科の土台になる理由は、何か新しい知識や情報を得るときには、必ず頭で言葉に変換するからです。だからこそ“国語科に頼る”ではなく“全ての教科で国語科のノウハウを”なのです

- ①情報の取り出し
 - ・文節に正しく区切る
(例) 私は本を読む。 → 私は／本を／読む。
 - ・係り受けの構造を正しく認識する。
(例) 大きな黒い瞳の少女。 → 「大きな」は「瞳」に係っている。
 - ・主述関係や接続詞を理解する。
(例) 「誰が・何を・どうした」といった構造。
 - ・代名詞や指示語が意味しているものを認識する。
(例) 私は本を落とした。彼はそれを拾った。 → 「それ」が指すのは「本」
- ②理解・評価
 - ・既存の知識とテキストから得られた情報を用いて、未知の用語や概念などを知識として理解する。
- ③活用
 - ・既に持っていた知識と得た知識から、さらに新しい考えを獲得する。
 - ・問題解決のために、得た情報を重要度に分けて取捨選択する。
- ④非連続型テキスト(図やグラフ)への応用
 - ・上記の内容を図やグラフ等など文章以外にも実行できる。
 - ・文と文以外の表現(図・グラフ・表・式等)から同一性を認識できる。